

4. 地域の里地里山を事前に調べよう（計画づくりのための準備）

4-1 里地里山調査

自然環境調査、社会環境調査は、「地元学」の手法を取り入れた里地里山調査として行います。この調査手法では、老若男女が一緒になって、それぞれが主体的に調査を行い、その結果を共有します。調査を通じて参加した一人ひとりが、里地里山と自分との関わりや課題、つながり等を発見することができます。里地里山調査は、調査であるとともに、保全再生活動への参加意識の形成の重要な過程です。



（1）地元学とは

地元学とは、地域資源を住民自身が共有する作業です。住民自身が、自分たちの地域を、地域外の人の目を借りながら、実際に歩いて調べ、調べたことを伝え語り合い、その内容を元にこれからの地域での暮らし方や地域の保全のしかたを考えていくワークショップです。

実際に地域（地元）を歩いて調べ、地域資源と地域の人材を再確認する過程で、地域内のコミュニケーションは活発になり、将来のこと、子どもや孫に引き継ぎたいことを明らかにすることができます。地元学は、「調べた人、参加した人が詳しくなる」実践のワークショップです。

（2）地域にとっての自然、技術や知恵、生活文化を学ぶ

里地里山調査では、調査も住民自身が中心となって行いますが、自然環境や社会環境を調べる際の「先生」（調査対象者）も地域の人です。地域に根ざした暮らしを長年続けている農林家のおじいさん、おばあさん、大工等の職人、食文化を継承する女性達、里地里山で遊ぶ子ども達の知識、技術、知恵、視点を学びとります。外部者や地域に住んでいても仕事や生活の面で地域との関わりが薄い人達は「生徒」になります。

地域（地元）では「あたりまえ」であっても外部から来た人が驚いたことがあれば、それは地域の大切な個性となります。動植物等の名称も、地域の呼び方（方言を含む）を尊重して記録します。

（3）調査手法

準備するもの 白地図（5千分の1～1万分の1）、カメラ、色鉛筆、記録用紙（地域資源カード）
手順

1. 写真を撮る：歩いていて見つけたもの・出会った場面・驚いたことなど、写真に撮ります。あとで地図づくりをするための、写真をとった場所を地図に書きとめておきます。
2. 写真の内容について話を聞く：何の写真か、地域での呼び方や使われ方、食べ方、成り立ちや物語を地域のくわしい人から聞き取り、写真を貼って、地域資源カードを作成します。

3. まとめる：自然、生きもの、作物、食、道具、人、技術、しくみ、知恵、農事暦、山仕事、野遊び等のカレンダーなどを集めます。これが地域の貴重なデータベースになります。

以下、自然環境調査と社会環境調査に分けて、具体的な実施方法を概説します。

地域資源カードの例

